

2021年12月15日

## 日本における鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎(CRSwNP)患者を対象とした手術に関する意識調査が論文掲載

手術の有効性への患者満足度は高い一方、手術に踏み切れない患者の存在が明らかに患者の意向や事情に沿った治療選択肢の必要性が示唆された

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:岩屋孝彦、以下「サノフィ」)は、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎(CRSwNP)の日本人患者を対象とした手術に関する意識調査が、アレルギー誌 12月号<sup>1</sup>に掲載されたので、お知らせします。

CRSwNP の治療法は薬物療法と外科療法があり、薬物療法においては効果が限定的なものや、副作用の懸念から長期的な投与が難しいものなど、難治例や重症例ではコントロールが容易でないのが実情です。また、薬物治療に反応が不十分な場合は副鼻腔手術が行われますが、術後も薬物療法が必要になることも多く、再発する例もみられています<sup>2</sup>。

本研究では CRSwNP に対する手術歴がある、または手術を勧められたことがある 300 例の患者を対象としてインターネットによるアンケート調査を実施し、患者の意向をふまえたよりよい治療選択肢の検討が可能になるよう、論文内で手術に対する満足度と意向に焦点を当て詳細に検討しました。

本研究結果からは、CRSwNP 患者は手術の有効性に対する満足度は高い一方、安全性・不安や苦痛、経済性に関しては不満を持つ患者が一定数存在することが示され、特に年齢が高い患者や複数回の手術を受けた患者ではその傾向が顕著でした。また手術を勧められたことがあるにもかかわらず手術を受けていない理由としては、手術に対する恐怖心、時間の確保、経済的理由が上位を占めました。

プロジェクトを主導したサノフィジェンザイム免疫領域メディカル統括部長でアレルギー専門医でもある藤田浩之は次のように述べています。「重症 CRSwNP 患者にとって手術療法は有用な治療法ではありますが、本研究によって実際には様々な理由で手術を希望されない(受けられない)患者さんが一定数いることがエビデンスとして示されました。そのような患者さんに対しては、患者さんのご意向を考慮して治療の選択肢を検討することが重要である可能性が示唆されました。」

サノフィは、革新的な医薬品を通じて、CRSwNP を含む 2 型炎症領域において、引き続き日本の患者さんに希望をお届けできるよう鋭意努力し、患者さんとそのご家族や医療関係者へ更なる貢献をまいります。



#### 参考文献等

<sup>1</sup> 岡野 光博、近藤 健二、竹内まき子、田口有里恵、藤田 浩之、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎患者の手術に関する意識調査.アレルギー 2021 :70(10)

<sup>2</sup> Fujieda S, Imoto Y, Kato Y, Ninomiya T, Tokunaga T, Tsutsumiuchi T, et al. Eosinophilic chronic rhinosinusitis. Allergol Int 2019; 68: 403—12.

### サノフィについて

サノフィは、健康上の課題に立ち向かう人々を支えます。私たちは、人々の健康にフォーカスしたグローバルなバイオ医薬品企業として、ワクチンで人々を守り、革新的な医薬品で痛みや苦しみを和らげます。希少疾患をもつ少数の人々から、慢性疾患をもつ何百万もの人々まで、寄り添い支え続けます。

サノフィでは、100カ国において10万人以上の社員が、革新的な医学研究に基づいたヘルスケア・ソリューションの創出に、世界中で取り組んでいます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。